

新たな学び、そして挑戦・・・『夢は努力でかなう』 校長 成澤 満

卒業おめでとう。新たな旅立ちに当たり、“はなむけ”として広中平祐(ひろなかへいすけ)氏の言葉を贈りたい。広中氏は、数学のノーベル賞といわれるフィールズ賞を、1970年に弱冠39歳で受賞した日本が誇る世界的な数学者である。若者に向けた著作の中で、『夢を追う人生が苦しいのは、じっと耐えて待たなければならない時間があるからである』と述べている。

あるテーマに向かって研究を続けるなかで、解決の糸口が全く見出せないまま、時には森の中で迷いどの方向にどれだけ進めば視界が開けるのか、全く見当がつかない不安な時間に必ず遭遇する。しかし、つい弱音を吐いて放棄してしまいそうなきでも、その辛さにじっと耐えて努力を続け、天啓がひらめくのを待たなければならない。この苦しい時間に耐えられなかったら、新たな発見を成し遂げることはできなかった、と自らの体験を振り返っている。そして、広中氏はその著作を『耐久する能力と創造する能力は、表裏一体といえる』と結んでいる。

高校卒業は、新たな学び、新たな挑戦への出発点でもある。程度の差こそあれ、忍耐と努力なくして得られるものは何もないと心得たいものだ。

最後に、皆さんの将来に幸多かれと祈りつつ、私の好きな言葉を“はなむけ”に加えたい。『夢は努力でかなう』。



人は生きてなんぼ！ 3年次主任 佐々木 正弘



卒業にあたりこの3年間を振り返った時、そこには如何に多くの仲間との、如何に多くの親との、如何に多くの担任との関わりがあったことか！ そのなかで無情の喜びを味わったり、思うようにならない現実には声を心を荒げたり、また時には高校生ゆえの悩み悲しみに打ちひしがれ、逆に一生忘れ得ない楽しみを分かち合ったであろう西高時代。

ところで、この当時の私たちが「今生きている」という途方もなく当然な事実であったからこそ生じた事柄。この事実無くして何一つ生まれなかったこともまた事実。とにかく生きていること、生き続けることが何より大きな意味をもつ。日々の生活の中で、生きていてこそ意味があるのだと心の底から思っています。

明朗なる200名の皆さん。まだまだ実感的には捉えがたいでしょうが、これまで同様これからも精一杯生き抜いてください。生きている限り人はいろんなことに出会い、変化し続けます。人は生きてなんぼ。生きることこだわってほしい。しぬな！

改めて一人残らず卒業を迎えられたことに、同時に我が子をここまで見守り続けてくださった保護者の皆さんに、万感の思いを込めた拍手と感謝を贈ります。本当におめでとう！そして有難うございます。

PTA広報誌「はまなす」が東北大会で優良賞



PTA広報誌はまなす48号が、高P連広報誌コンクールにおいて、地区1位、県1位となり、東北大会で優良賞となりました。入賞作品は全国大会でパネル展示されます。ご担当いただいた評議員の皆さま、お疲れさまでした。

裕かに
聴く
遅しく

センター試験激励会



センター試験前日の、1月13日(金)にセンター試験激励会が行われました。激励会では、校長をはじめ年次主任、各担任が、心強い言葉、ユーモアあふれるアドバイス、そしてカー杯のエールで、試験を控える3年次生を激励しました。生徒代表の言葉からは固い決意が感じられ、生徒たちの表情からは不安がだんだんと消え、引きしまった表情へ。西高職員一同、すべての受験生が、自らの志望する進路を勝ち取ってくれることを祈っています。

進路講演会

2年次生は2月16日(木)に、1年次生は2月23日(木)に、進路講演会が行われました。講師にベネッセコーポレーションの濱田みゆきさんを迎え、自分の体験談なども交えながら、貴重なお話をしていただきました。生徒達は、時おり資料にメモをとりながら、熱心に耳を傾けていました。生徒達にとって、今回の進路講演会は非常に刺激のある有益なものとなったようです。

～生徒の感想より～ 2年生次生 M.さん

今日の講演を聞いて、改めて日々の授業に対する気持ちが引きしまりました。高校に入学したての頃は、毎日、予習・復習がきちんとできていたはずなのに、今では復習もせずに課題の提出に追われるという状態になっています。いざ机に向かって30分おきに勉強以外のものに興味が移ってしまい、集中力もなく、どうしたらいいか困っていたけど、今回のお話には、勉強の仕方のアドバイスがあったので、とても参考になりました。『気づく人100人。始める人10人。続ける人1人』の言葉が印象に残り、今の自分はまだ『始める人』で止まっているなあと痛感しました。続けるといっても3日程度しか続かないという現実は今で終わりにして、『始める人』から『続ける人』のその1人に近づけるように頑張りたいです。



裕かに
聡く
逞しく